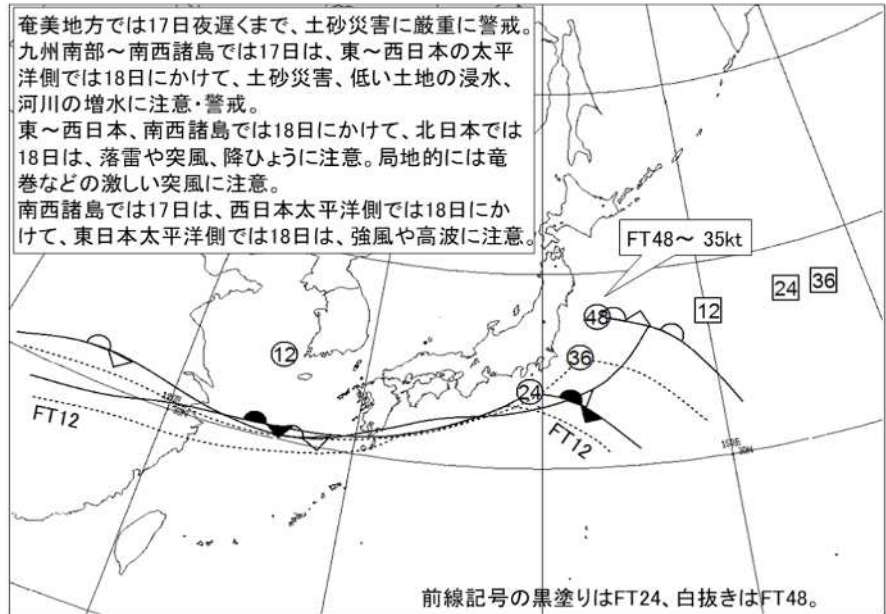


1. 実況上の着目点

- ① 前線が、華南～九州南部を
通って日本の南へのびている。
前線に向かって、850hPa θ e345K
以上の下層暖湿気が流入しており、
前線の近傍や暖域にあたる
九州～南西諸島では対流雲が発
達しており、非常に激しい雨が
解析し、発雷を多数検知。
- ② 日本の東には高気圧があっ
て、東へ移動している。北～東
日本では高気圧に広く覆われて、
晴れている所が多い。
- ③ ボツ海付近の500hPa5760m付
近にはトラフがあって、東進。
対応した低気圧が黄海を東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の前線は、18日にかけて東日本太平洋岸へのびる。前線に向かって下層暖湿気が流れ込むため、東～西日本、南西諸島の広い範囲で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨や激しい雨が降り、大雨となる所がある。前線付近や前線の暖域側にあたる九州南部～南西諸島では、対流雲の発達に留意。特に奄美地方では17日夜遅くまで、土砂災害に嚴重に警戒。九州南部～南西諸島では17日は、東～西日本の太平洋側では18日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。また、東～西日本、南西諸島では、18日にかけて、落雷や突風、降ひょうに注意、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、1項③のトラフが18日にかけて、北～東日本へ進み、18日朝には、このトラフに対応して前線上の東海道沖で低気圧が発生する見込み。19日にかけて発達しながら北東進する。
- ② 2項①の前線や低気圧周辺では、気圧の傾きが大きくなるため、風が強く吹き、波が高くなる所がある。南西諸島では17日は、西日本太平洋側では18日にかけて、東日本太平洋側では18日は、強風や高波に注意。
- ③ 2項①のトラフに伴う上空寒気の影響で、北日本では大気の状態が不安定となるため、北日本では18日は、落雷や突風、降ひょうに注意。
- ④ 1項②の高気圧は、19日にかけて日本のはるか東へ遠ざかる。また、1項③の低気圧は、18日夜には朝鮮半島付近に進み、その後不明瞭化する見込み。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSM基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ① 雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島・九州南部120、奄美100mm。② 波浪(明日まで)：伊豆諸島・近畿・四国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。